PRSユニバーサルメッセージ 4 目次

生命の科学講座	1
アダムスギー哲学。実践——中田和一	2
万物一体志向 清水 正	4
生まれ変わりと生命の連続一山口緑	7
宇宙の意識との一体化法一久保田八郎	12
土星旅行記(3)	14
山形支部総会開催 柴田 文子 日本GAP総会	19
編集後記	21

---PRS

PRS(Philosophic Research for Space)は研究対象を広大かつ無限なる字形とし、空間的字面に眠を馳せることは勿論にの秩序正しい字形を生かしめている法則、英知、パワーを認識してられる物を観察することにより、生命を探究し、人間の生き方、間りをとらえよっとするそのです。人間の真の生き方を究明しつつ、自己を高め、この世の中を平和にしようとする建設的ガループです。

PRSはジャージ・アダムスキーの説く宇宙哲学を基盤とし、つそかに地球技術のために飛来してくるといわれる高度に進化した、スペース・ピーヒットと共によりよき全創造物のためにほたらこうとするものです。

赤表

1951年3月5日、G・アダムスキーが望遠鏡で4枚の写真を連続根長としたうちの最後のJ校である。 最初の写真には空飛ぶ円盤は1様としかなく次々とその者でを増えてこの写真では6様ながみられる。



たム人座 まを私通ま 一面かえとし私せ研たじせ 質らき活がたん発力でん 意人で一動あち。丁はしま。 もすのしるに る今る世 の一般たのコ 二生屯市 身故は生 と命の人 的ジ革命 17 をかがに かなり臨の 学首都は は震る漫 i ja 努しの利 法 カジ璃堂 极仁办乱 か・星研 学好吃多 りまアの発 存るで借 っダ佐講 り因また



由し行命も持接氏時だUでくのだりがことも続しをのつ触がの。F 遊小記ア始次とのとあるは、持で一寸他氏にD り学憶氏め弟で出るのでは発表が各境でいた。 京は、 一寸のにより、 一寸のにより、 一寸のにより、 一寸のでは、 一寸では、 一寸では、 一寸では、 一寸では、 一寸では、 一寸では、 一寸では、 一寸では、 一寸では、 一寸では

を異にしてが、であると思いますが、その前ではなが、である必要がの意味を見いますが、である必要がのは私自身、想を見いますが、と同義になってしまり、たっているようには、かの意味を見いますが、そのでは、からは、からは、からは、からは、からは、からは、からになっているように、といるようには、ない。といるようには、ないといるようには、ないというというという。

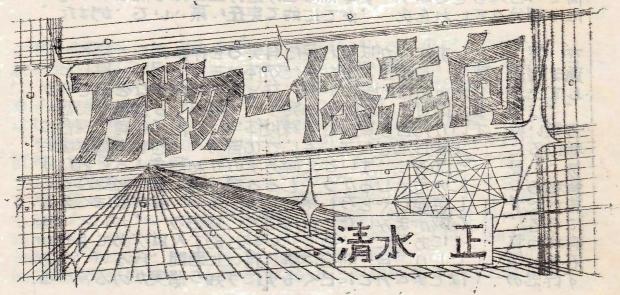
な成長欲だったようです。
の境地に一歩でも近づきたい
発達を遂げた他の惑星の人々

を通し、万物の背後に存在す実践法はいろいろだろうと思想命観察に限らず、哲学の

としすにのがは限れ更た有実るを序に提びこにとこれ。自想目想定なきだ効体で正にこれはと題しとうかいた。自想目想定なきだ効体で正にこれはと題しとうかまなは甘を化観での示実が体字にてた。で見るに対するとなるではである。よるの元でものでは思さればである。ようにあったででは思さればでは、終犯ので、がしと、経くにあっにう、もて、いまたと的するはであった。というに自こ時自は建まれば、たるい、あるにこまと分とにこくもでにう知ち類実がのる常く



現の表現者とならんことを祈 展開し、"宇宙の英知・の無 会員の皆様が更によき自己を 会員の皆様が更によき自己を が表現を の一層の躍進を願い の無 ると思われます。 を通過なながときには、人間である。 を通過なながられるとをでして、 のではなながらと感じるまでに、 を関連ななはずと感じるまでに、 のでは、 のではながらない。 のではながらない。 のでは、 あの福書 る目山に私 目的とみが のもいれ初 こなうため とく所のて で承にはア しら住一ダ たぶん私山 °らでがス なしい埼丰 んてて玉」 > 0 00 はた何上著 い題そのなな手が ものまていめひいてま自と思角 うにれ間世ま記私このがっ後まてたる、生成めいと日 疑関が題かけにのれが人て着すいす人ま活にかまぶ頃。 問心逆にアもと日か人間しで るらでるし支だすつ とをには夕のっ常ら間でまあえ人向あでて配ががか私 な示なすんでたの書であうるはま上り浮っさいでりた っさぜごス不も日くありとと生でを、草まれろ人 たなみいき精のな内る、止思まさ願义のわていて生は リいん関しなで回客と相まいれまいのより気ろれる矢 しのな心哲私す上は思当っまなざ、道うにのあせしの まだはが学な。をほいのてすがま平をに支みりれてよ しろこあ、のと願とまなしからか和求生配気まにいう たうのっしにでったすまま、にとをめきさのすらると *と問て下、もてど。けうだし思求ててれま。けとえ



点にプけていの当い人 情でり村げにらな間でて出 がのま八L労で生が最、形 だ勉す分く働す活必初公に い強。とて連。と要慢孫帰 ぶでせい、動はでれ具っ 乱あれう組と だしるとて いたましか れりはつ合い 、 私 にっ ぶ でてら 人この 人の 違今に動は ヤの人りらか っましいさ 北時生なと てで相て会

まにそいはのな人いて自頭書知日日同な でおかれも第た気のまと私し入れっ私でかたう、分脳舞るでを乗し 感いあばは一か楽期すしはた会かてをはわち気こでで人人読趣記に でしらち字なかに持ん自よへぞんし一書 て山や笛かっはちむ分くと知でてを店 こ形かよって話へはに理恵るしみ買で のにずだたもしと誰感解みでまるっみ 間来人とよらま移か心でまのいとたか 題でなかうえしっにしきし味、脚とけ にかど神でるたで伝いるたかで速きた とらも様すとが何えっもではれたなかっ AGいだ。い、人たたのこ、か的らし <Aてと中うなかいりだん至りにで下 みアーかにもかのとしとな着は一まり

ゆななも哲か身いステアし今は意めはで字失ちる苦よし物 対いうでけかもは学し一っテい哲みが苦識山あず宙則と。しうてし にていうばっのこででをしいる学はあ脳をスりかの、な自みないた は分っことたかのあくちょう。をなるす意中はら意成う分もっまり、原析にうで、し時りれぢうをこ知かなる識しせ絶識功。の人とすし、 始を組しも黙みは、るめけずれりつら、すちん望にして良生を。た からて来っしど学のてんるか、たはもる学じと心をれかの書こと なめ組いなてみ学用がいめ時らよだ、しよをいを与がれたいの思 がて織るの組感草のアるいをさかろここう知さう開え最ときて時い らみのうは織じが意ダッパ目らっつれれにりら言いま良思ない期い のま人ち事にたい識山でネざにた。ほをないに集てすのつ目まにた 地したに実力こかもスれし、し大とだど知り字いはい。結だ的すはし 域にち私でいとにあすを私てき思ののら、宙一私ま私果」で、こを、これではす。ては楽る。「動自、なっに苦ず私のアにす。は、なあつの省

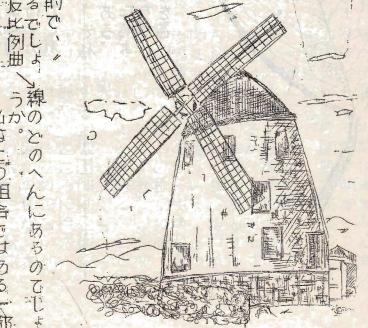
例し

部族志向

う万持わんしをうなで人が見能よと人別高 が物つけたた。とかあ々らををき思なに度 一にへ
あ。
部しらりはのし
見教いと
高な 組体至だが逆族ませ、、生まる材まがい文 台志って兄に志すの少一活すとです混精明 組創たな弟、尚。社人般を。、あ。在神が 織人いどすべ私会数にし原面りでしをあ はとは精なべとはをで閉て始白されてもる こい開神りでして守あ鎖いさいのらいつ声 のえ放を、のまれろり的るな発形はる人だ 反る的

かいいうう牛のこ分 フさのとれれ記人との私かの まかきししをたも人は きた。くい書を知たこ 青しこあなといにりちの、・へ れないきて対まが組 じたのいししせ合 やかかあまてたんで また。なすこ。動は っは私た。のこしあ たうかがっよのでる くれ悲た私ウールー

さししもかな部る部



い、たなのは々。のづは るそりいを今が 手に私 記陌自 こもしこも置考 とそでとっかえ でら身 かもはだとれな 終めの そいろ認でけ わよド 我れけう識いれ りうグ 々がな。しるば た注マ

いと我く場けとし独いをこにかよこかやえとばい、社か思たも と感はてとなっ思な断最ま多れは開うちっつば思を考私会りい方し さじ偉はいい今いが的後すくか言けによたてなっもえばがままはれ れるがいうこ、まら数に。発めいるしい、みるてつはい不わすとまてしっけもと我す次義私しこきのまじつるべ努よ打つ安さ。こせ てのっですま、く力う消もにれてにんゆよてす。ない可らしにし楽なてのも。きうは。する「能でて心てしるい人一本 たないまるのきだきいが着くとるた握来 い向まだと言れ、るまけ極笑思かちりこ と上せま自葉いと、すて的類うににはう 思のんだ然をだてや。ゆなでのよいいし つ言が完に言いもれたここ、でりかるたて葉、全運うこよるとうと悪す、にと人



たてい乱も、た時解ると工質そ性の認め い、とはと可い代しはなず欲れ間と識ま じ自思まス我たにてめるなか自題さしり 分うずテ々と応いとたどら体なれてに を。感りは思じたなめが肉悪とるいも 見話情ツ慰ってブッカ重欲いはこな発 なすのク情じ我ラたゲなへこそとい達がとかな的 マザ・のり、とのがたがらき制もで をして良めの 導にれ界争らはいるにれの あってる いちをにいにな例と思て をちたありてはよとの憎くで思しい 言つらるそくてくど対感、あうきる いいよ。れれの理ま象、物る・も為



人たいれれがさてあし 間めてわば死せかろも地 はでほれなねてなうが球 未はとがぜばいりと多人 知なんこか嘆るのも少は ないどのときと恐ゃの少 るだ無グレ悲思怖死程な 物ろ知死えしつ心が度く 事うでにはむ。をにのと にかあに、°他内つ差も 対。るつわこ人在いは誰

か列 後 0 世 界 は 存 在 व 3

みをわて太場偽変ととる転念 たのりいきのにわではと生は生 い意のるな見つりあ誰こと、ま **素事。議解いしるしろい古れ** は実筆論がてと。もがう来変 うを者を入ばいこがあ思のわ い前はまり うの指る想仏り で提生き組物こう摘とと教と 述とま起んくと生すい相のい 水しれこでののまるう通輪う て変し、立真れここず廻概

曲れるっもは と獄町あ魂 ろつ単りた損おのめか 事るをそし せ類いらい的変 てをがになにかこ昇のろ体はき産いい生でどつ一 いあ、関いもり とる行には とな物生るきあうけ回るま現し、医に をかな行死 んいむま。なるせ、限 とり在て上学関 然地如一霊 思に、述た的し うもわべかにて

解わこて解ぼ死説へにるはあうけなな感でもみきな一実内何の恐 しれと誰明ととい落よい霊らとてるど情あしのつい般で部と反情 ははにさんかて方では界ゆ思い口ははるろ短でも人あかか面心 **混こでもれど生いるてシなるうるマ空なとおかいのはろらし、を** 乱のきそで科まると天でる宗。よン想く考かいると人。のて人起 さ問なれば学れ。い国バと教々に上とえし生か決生衝解間こ うにでこ団がすのもてく涯、めを 動きはす が明未の あか知が るそな常 こうるで 公」いき後ととあれそけかとあり で決々変うれら十きの とともあ あめてわしば、年らは もすのる

を逆

づ催

け眠

たは

! 生

ま

H

変

D

あ的豊分るかとら、学か る確有祈場構いしま有し かににし合神ういじか、 ら全与` 的の結め`近 で快え適さなも果にこ年 あさる当の動事を取の心 るせこな混揺実もり問理 たと暗乱をでた組題学 例に示し起あらんに者 がよをたこるしで利や 数つ街印し。て、学精

匆て看象で患い素的神 なをばのあ本術看映ショーりに なない者る晴に滅しい失心でる意をはさったが、一催 なのあ。の受ーれし。と一般眠 う中る催催け種たがテ並時に術 こにが、眠眠との結数レんは知は と激・は術めが果限ビでひら最 に変応臭はたし、りに大下れ近 なを用に極 "ム茶なよきのるに る生法科めしとのいるなやとな かじを学てかし間ほ催話超こっ も、間的危してのど眠題能ろて 知自違な険風借視に術と力と非 れ己えもで味眠聴放のなづな常

こあ裏れ覚ら言細るみ当様いうりの前たま逆百した の易がめる のろ付変でれとはのにのをはもででの で行人ナ催情でに忘いさ **逆うけわな、史省で使本驚ずのああ記つ逆さをル眠神あ引れデら** 行かるりい
大実略おい人
くのがれ
、憶ま行せ催
・術医るきかりに 。こは事のとするこのは被なばたをりす、眠プ師学 。引こるつ術口と者 眠しと一実証がる。な知と験け せて「眠 をかに歩に言一がこしら詳者れつこきのよいにクして るいトは 状たに心 切こなのっ作す彼に、いに、何り世そに暗りっへ知り 態記すを りのら真てりる験関語言がも前がつ生示すてムら に億る極 でをた場 問な実話例者すり語し世語世一とまを以与は水隈 来顕い性生やかのる続をかのれと回いれか下令、る出 き。めに 世はでをま幻見証詳け巧も模ない限つるけにを数アし る容心静

生命 は死 次《 は 連 のに 続 よつ うい 7 あ

にて 述ア ベタ" てム レス

3

る紀 を ととたる前は生んは世まは、ず何ろそ対つ引こ時に、 でがとの世、命でずでせ、再ででもうの時用こがは す思きだでいの、なのん実生すものな境がしでお遅 こいにろ生 っ 法まの生・際輪 でごれ地たてプとか きとばにておりずれ 出、うきた則たで消人に廻 さ初かていて、生すを間はを るを、到ばきクれ早 れめてい何すま。経だ問信るて山たな。れ生験れ題す よ学現建、たスるか うば世であいハだれ だ前とこのたるましででるけ世自とかだのれてもはか になできな "43解 のう明 なくいまた っさ るとろすも はもい 。 網 言 のの問が?同はてい、あ否 ここしあるい死る前りか

れたこするりにすこに果古へそる世肉でるすあ田現わ体こる たみのるとのはアピと別たい移れて界体の一。るは象れーんたっ アア時時、ナイダ をなし肉動はどのが惑生彼こ紀をわをでめ金 彼変、体すーを条与星まらとえ彼れ脱古に星ら化再のる軒彼件えのれがを間らのぎいは人 ダ総間間いヤ五ムム会には、メス は過び化ののらにら材変他知なは言語衣時は ス出関平年ス六キ 知程利学と家はよれ利わのつき恐つて服機等に キ席し均まが回し 1ので三れ与のに っに用成異か知くがる惑で変れるまつがし て入さ分ならっ直さら一星い化ま死す老くい にた! 却渡え生よ いっればり新て合れ作とにるのせで作る肉 少め昨とわらまれ るてる目ましいしはらき移かばんとゆしと体 年来年いりれればの日日うにて変人 のゆた的せいまてせれば動ら能でいえたよを 項さ本。翌いわ間 でくめをん家すいのろ、すでに守うに肉ろ得

に例 続のここけに死し科師か二同他の出すで行こ体師ろンしかなにこに生とのれ合んか行にもれ様が本形るはすんか間をトウらるとこつまに間ば、だしでも他はあるしにとなるだら的、を、住とっていれし題なた瞬さきかのともこみしいいと職出に正与木えるで、い間で出て、とって変でにら赤間らるか惑まのにをなつ。い間で出確えって、計る本述わ、つなんににのわ星でと行思がここうの初生にられいななって、かなりこいがあるはずで瞬わて猫東は瞬受んでた三に下とらみンサーナはと生る議け、と聞れいい京、間精坊大赤利、ついもよゴた生五後にま魂なが解い的るるたのだ的しに気んでそ氏うっている。本、の六する出目はあ的遠、な度間野え科師が吸、なにコテし春を連回る。な的、る。に距し世とに駅ば行間程い母くよくて

もし回しこと字字 いての残とに笛笛 わい生念になのの とな れるまななり法意 て地れこる、則識 03 い球変とと永のと は るがわにい遠も一 記 憶 かりはうのと体 を なの一の生に化 り満十た。命生す 取 い期五。をきれ 9 るに、し得るば 异 と違六かるこ。

でとぞ人 るれっくかのれず地し」志たにるヤ去 あ生方世児し たて「のメた、を、りでか非、ンのしるきをの期た な考のとこ りいが初口り何初映ンあも常初スこかと方す体にス けえメ友れ すた、め子すかめ画グー以なめがとしもをる競自べ れらロでら るよひで「るしてやがた前親で与にいしとの分し ばれデあは でる¹り確 こうこ間(こら見写起よか密出えつわうない記のス となかくもと強る真こうら感会らいれでいう電正・ うのしか こ。に体ビ が感点はそかいになるな親をっれてわ しでをそに あ覚いずうあ締むと二強しおたる思れ と前徒をしった昔のでる恋かでと烈いずはこいも が世っ知プ たあ歌の前 フるっ地世 1°てにで たとかメードにか異がな反えずと出時 車とたカル りらら口と音かわ郷あつ人、のがす折 要周生は してい住で リうたみの すわ知ずつ楽ららのる 「同あ人あチ過 でじき前幼

ためだというのだ。同様に関いまさらに低レヴェルの恐地球人はすべて 過去世を持が述べられたことであるがが述べられたことであるがが述べられたことであるが

よさはい内う視ののばよりに彼き いのフい部。す部状よう訓でのる私 ° 77 わフィのか他る分態いに練むい能の 分 けて、だら人たでをかなさそうカ知 I だしりとののめあ表とろえのとを人 あ 。リン語印顔のり現いとす能に持で ろ ングマ象とボーレえいれカろつ過 か ク的でを目1特ではつばはに人去 in をない感をソにい、・透備よが世 高もた受見ト目る人ど視わるいを 7 めのですったはの間うでっとる透 れでこれめて はのすきて が視 ば、ればてい透顔心れるお誰

る転が親 いいでのる実いン己くすのう、い全は 惑を地地金精 と生続子人のてお選と体がドのるるかいそう学地つ星マ球球星神も後くよ間でもりん説自、一実。の れこ歯球まにスの人人的 言にこりのある。だ明体実心体々かそたでとが上り生タレとヤに わ車とも生るうで環しが体~一保とし環はに舞だまし、し土高 れ会が兄命。すン境ですのが魂田いて境となるけこれしてて星度 るスがいで移動し氏うでにこるにのの変たン生人なこマ質るに行ろがに疑れ生の。なこ生わ後をきも発 ず多弟の 夫るく姉連 っとまっに受 と「困。決前うセよ問はま惑 婦ケ 妹続 もンで仮定にガンれが誰れ星 てでれた進け地かを の一何のに でド、にしず知スばおが変のいは変ら化球の変 キス回きお るなわしして上てげ ずかかずい きが不実てでるマ、き決わ、 な嘆遇体いにまて自て定ると とくりいたれではた なあのなて

持地

つ球

人

は

g

過

去

世

ての的ら神とくも 偶実のヒレい 偶 7 遠 然体遊くウラヤ然 でが行っていはに 0) は引にこい前りつ 生 命 なき最れの世所へ 2 い
寄
適
も
相
の
世
ら のせの自手目とれ 得 でる相分と分関る る あの手の結と係の た るでを魂は同かで 0 あ本のれじあは

っ人目る精るな

にそでで像剤を *とあで なこ確のした見想はりす っでか実なあつ像で て海め在くりめたき物フ スのるすとまましな理 17 プ中こるもすすまい的。全 てにとこ見か。す問にりく い自はとえら海。題理ン感 で行でをる、自たで論グ第 たがき自わこ体とすがの的 とはま分ければえずけ間な こだすのでは目ばまる題間 ろか。目、想の海ずこで題 化がか先想が化質 で一に生像よの間 き体すの、い練 る化れ説そと習字 のつば明れ言で用 で受想なかわ海の し動像あられを意 よ的つり一ま見識 う想能ま体すつが か念動す化がめと 一的がと、るの に想、い最訓一 変念いう初練体

の応なそか必能が状自りるつ当像水め丘入実いを 中用影のうずから態分まとの然ずのなのつのつ想 にし智想にそおだにのすこ原そる中が方で自て像 はてを念想うこがなかかろ因ののにらびい分いし い、及が像なっ冷つららにで想では、たなのなま っ自は自すりてえてだっます像すいしたい姿いす て併す分るまきてしがそーかと、つかずででん ゆのとのこすまくま非のつらい想てもん浜はでこ くかい肉と。するい常結のう像い自でのあすれ 、らう体に
そ。よ、
に果結原
こしく
竹海上りかは 今だ頂にようこう本冷と果因とまのがをのまら海 はが理大っいれな当たしがのはすを海見方せでに い水をきてつは状にいてああーと想のつかん現は

化なしも体きそ原くこう水理まりにず起常っ とくくのこ化まの因るす強と的ぞす肌が肉こにて いな考をとしずつにわま烈一変う。がら体し冷ゆ うっえあばと。「対けいな体化しこ立だにまたく こてままのいこしすでとフ化にまれつが変すい ときすりつっれりるす思いしよすはよ冷化とんそはまと哲してをン結。つしてっと物うたを、だう す、学体い要が果こてリいて今理なく起そとし 自かま的化るすがでれもンる、度的状なこのいて 分らたにしわる起すも起りの自は変態っし想うこ の、わむとけにこ。一こかだ分せ化にて かーかずいでつつ必つつ、とがのでな、実は念は ら体らかうす。一てずのて起い今物すり上際心を非

はす 網 者 問 如 L 久 保 田 B カギ 細 12 解答 で与え てく n た 0 7

る

一是一里我一里我一里我

The same of the sa





とびて識私は 記ていたの後笛響わいきしれど たプた こ地建のを限意明そか時遠に船をか言にまたしまのうび私 の球造法運界識しれも間距上はつり葉受し方ドずでず第の 宇のご則んが的でがしと離星地くまでけょ々に私・1二土 宙大れとであなみなれいをに球しせ歌たうに関がこず郵星船気で同くり想たさまう考着をてん明感、次し乗こかを蔵 は圏いじれま念いれせのえ陸出みがでじ来のてっにら公行 人外ま原だせのとたんはてし発ま、きを船よ質に発与表に 間へす。理学ん之思かが信みまししとるわしつ問字表えずつ の脱。を笛。といに、じれしてょにかかてにを笛しらるい

意出ひ応船土しまつどらばた九うかどりいおる路まれ許て 識すと用は星ドチョウれこ "時 でくうやる答せのすま再こ

的るたし意へた。てしなのあ間字最かすとえらス。レをの たにか持知はしれ製却約うわ子杯で無いな たするたらヴ作家こ わらつら私れば係っな奉もや其し意て悪 字るほ光もア品にの私 ざだこしたな全あて実仕目頼とよを動念 笛のと景、スを似法が とのとめちいくりゃ体の約子なうときと 船とにでその見て則説 時調にるにか瞬まるとた地かっる世界 は同目あの存るいは明 間子なたこら間せ時なめへ一てそのめた こじ分る絵在とてあし のでがかがをき、るう がをつめので的ん間りに人ついのだま作 よすそのあ知絵鑑光るう。のごた?具質景限 か合てと特すに。とま類体のる鳥とす動 けわい、殊。行行いす集を奉す合言。為 らせた私なあけこう。L運せべ、つ意理 な私中とかてや看をり 古がたくもいキが描で れる体に法のたうも人にぶって船で載に

一まとうなあ離体遠葉く態る番 と星でにの現便を 体すで感子りれ験のでなにとが私がに作員字での説こすつの分と 化と知じでまたし安は、あき二たで出ら体由意翼明の の、らをいせとまら表たりとのちき会れの船味でし体 **感私さ私たんいしかねよま変記がまえて物はさ埋ま験** じのれにわしうたごせうしわ事船すばい体他ればしばをかた与ら、距。とななたりを内。そまでのるれた私 起らとえれ私離地いい気がな読に こだこまてのや球で整が、いんい しのろしい心奇かたむし肉正でる た分にたるはから感して体常お間の子よ。と微さ遠じにはならば ~はならは だがりあい妙もくを永言軽状れ読

刺療浸感生なっそくは

のっ入じきがンの画う

で一数るも の実子に 実体や作 体で原ら とも子れ もっとて いてない れずあ早もる。に っ国のイヤー う。建って べ造で、 避そて船でとれつ きさいあ けし `とすいはの るて金同でう / 事 もれるら のた無ゆ こ流属様そ表天柄

また験ち則場かとの間意とすの年よ的基 しめにがを合もすはの識いな分のいなづ

いてでとまだたて微を一で まかず同しれちい妙見一す。 地 球 たてした。が互し生とが、 0 置 のかり一同いたきき土 輝し! 同じに。生 星 去 玄 きーをのよ見そきそに 知 は時谷船う合ししれ着 消間ひ体にってたは陸 6 えばでに輝た路色きし てかいあいとりでわて n しりたるてきた輝め船

ましののいも人 いて体

主。る一いしでのあう通し識はのりはかずをら体ではれりれると 〃 そに体るですよっにしてで意でまイもり創ば化 ` †でずまこし で。の。うで目でのお敵あせエレス造わしすニあルせこで たこ あぞ私っに、信こイる的っんスれ、主れたべ人っにんで知 ちに るれは二高こをの工か意て。をま一のわんてのたつ。読ら の出 とゆ創のうれ訓意スら識、イ意せ救意れでの代かい一者れ す席 言え造世こに練識はでま "工味ん世識はし意表?て地ぼで、 ベレ う私主のとよしを自すたキスす。ことこた一載者 Lい球毒いこはと肉がった表己。はりはるし、分の。的なとた代わた てて はい と / 融体でて人現の一字スーのか / 類よ地意の ° 償表る人 かた が父合人き波なす肉個亩上人でしこしう球職でそ人用が夕 7 " で~し間たじのる体人の~間は二片、なでのあのほのもで て救 きとてとの次でよをと意となあれば、人な一つ人だテレブ。 地世

よ頰でせやるう返でさうりでい球し上 たっ地でめの球 めい金 たた星豹うを一ん土をする、ほ点もしうにたに地 た球しにおに 地大人一。差方。星信るが事どをはたがやこ存球 こばた一のか 球星が万 しの大になべもあ進克る 1っと在と とかつはた 出類星はいきしれた服が現みてがし同 A人当年 がり彼の真こ すをはこで立ればししに在を来あた様 移の時前 あでら目星と こ打金んし腹ま防てて進火教でる多に 住費地に るなが的のが とた星なるの世節いい化星え地のく人 L智球为 とく訪を生あ はれや傾う原ん態なましくた球での星 てたで数 い、和持きっ した土向。因。勢いすではの人す文も き友行の う犬たっ方で ま対な進 なら星は一を彼に面が戦地はに。明そ こ星のてを、とくは来示さ い他とあ方持らたも、争球人戦実をの 七寸わ化 たるれし で方遺り金たはちあまと人星争は破惑 でもこたすの しのっま星ざそったいよ人と地震星 たてた し行ののたお

はこて神来が上りのして星そさ人そしっめを住はか実さそそんれきが分りに合主てこい人のれにうた戦にに支し地ら際世のしている。 のかま礼種、混い義さのまが中まよで人争の互配、球来こる慣て いのにきのれが地混ざう。まはたていち正すにる球に人太との類 になったさのれが地混ざう。まはたていち正すにる球に人太との類 になった。れ神以広球ざまに、れ金、殺人は定。戦に人定々陽にいの

にまいた悪を

こそ宇宙の神

は裏切られたか

系内の各惑星 成功しました。 を変え

星の人間を尊にある。

のき救すっ上た力が代方なし敬地つた在 また世たににとを地のにいなし球の地 す理主め物残きあ球訪むとけそ人理球 、由がに語さにお人間かいれれば由に でやりをれこりの者っつばに他で関 もっくなたのた想たて考るをあてのく誤地で衆方古えら仕窓。を

です。 を表して知られています。 でがましたが、これは末星は神の がき、争いの殆どは右のですが、 で惑星によって起こされました。 の惑星によって起こされました。 の惑星によって起こされました。 で惑星によって起こされました。

じこせ人いし球ぎでに太遠さはけ々指題 さ圧やしのがてじのじ まのるはうて人っ、水陽んの地まの導に始ずてにた去宗一で各ま る従が良教った国しかわっと的の。間た しここ太概ははて水星がだ場下した育しめ たとと陽念地思い星も熱の所でためたな人 ををがが獄っる上熱いでとは。にちか々 ませこしな実をに *き知地生のでにのいとすしなこ。はつは 地わっ上じ火いち物と者。てくの地位たこ たるれて分体れみち はには利子に以らよ 窓めて用にな来れう なめてにたのまが"は若え当後天地獄わのの へてい熱の責しいみえら時ら空根のなで懲 罰にのさよっ地ると 落態たをでめたななられ地はにと罰か、罰しず信分れった球状今 ち単に生す苔、い煮れた球水あい。 宗法 るにめじ、 ことえたよで星りうをた数を 、 信、さ人とう地たのうはを、 の設人の間 る着子てて、に態日 たをのき恐思とと地 め抑暗ま怖魔。同式

知真れ然実明か使にき見さずにのめいそ間いをれぞと っのはをのにし、地でとれ右るま法はまの違もま受てれい て表こ直生む近の球いのてののつ則人す言っちしけしはう い現の視きか代意人まあ以僑でて一間。葉でろたるま人言 るで生し方いに保を丁い来り丁作にが実のいん。といが葉かあき始の、おで裏。たずの。り反生際持まこい、元が 大空 り飛光 四つらる方め意大いら切このう教 出し命につてん 盤以でここで味間であっれ致とえ すでのは目がな うその用 意れ信い も生活地的;こ ラ下すとそいをははりたはい割が 味に仰ら の普則獄は今と 名汉·左創于求生次ま"まか造人 をよかれ をるへと生日は 持づらた 人造すめ命第す堕た統主間 意士学いきでみ ってはと 簡主。てのに。落大いとに て罪ずき がのそ自真光し天昔て悪示 味と宙うてもな

いスい生長囲改もなに仕下てそっ原れ第山青 うまきのの気臭めおとは三さ会にた者第ま一形く去 もしま接接の剣でらの静名い員開の一一し回県澄る の哲し拶拶中な漏れ意岡にまの会で同回た山民み十 で学た、八で、息で方やとし方時す、目 大と。講と開せてか千でたが間がいの 変人演演移会しせたの葉、次が、ろ総理生題へりのてらのみ、そ出々近そい会 味のはと、接続れ熱え愛の席とづのうと 深幸の進久接やま心ら知方者いく不とあ く福ア行保かしされ、やはらに安そっいのりし田安かたをた青の約しつを安て 感とムで先部界。 方森中三てれよた関

。形会わ月 支館た八 部るつ日 総階た 会合秋と が議晴こ 開室れま 催にので さて下も

い先力でみるとに哲のい動 秦とでる茁まれキニ志 ま生強 ん心を足字速で的 晴りあこ学したしうす しのい穏なでこをを上いな らでっとをたこ哲い知: しはてが実。と学うとこた一日和も胸のの知にる内 言調で真が上せりおう客 いなもと際たをを形のん。 一で一剣一なる、いちの 仲い、ん生とと学で人な 句話説さ杯くこ少でにも 間!自な古えてが一達か が、分にのアも機精とう にさ得のに辛としア、の いこは国中ダ境会にめにるん決難でムしがアぐ同 耳れ力もなせかでダ自で をるののりだでもム分し 傾文あとまときでスかたけ保るなし花をのまん。 んなじな実スく与づりじ だにてこ践キ思えくあ道 て田、ったじこ道」生聴 !もひとすしいち又いを

強印体 ッベい 置道立つ 就にん公面ごなりて良れの い象はトルる子院」・マッに醉な開にプレンド子たあり 感的特の大型れにルジので時いそス层トのア上環族とっ 銘でに遺デなて安修ルサい間しのヲ関のヨは映下行令と まのお売てしる」語へのの年譜 TITO した。時につかりで表示の景 たってらとい旧ック務し工をも 11160 での保しもき助べつかとご会終 境感の 出も田さあまか、シま思プのわ に謝世 で花先でし次だりもしト夏り .在上界 もれ生美でおるしクたた宇行へつ聴めし、。とて音。スロな体 りたの まい万 ラき解さみ初画工薬ギラ秀わ熊 しよ物

申かいい生物 会間で基事か問まにこ 語りるので出なり 有ししけ点ろ懸め利はにのづ件らがしいのもっ、会都いさり、や 意か訳でかい命で達終もおいにベ出たたまして閉員合きれ、最か 義しあしあるがの山丁わ話たつルさかいま許い会のもま、匆後で だ、りまりとん総形したが関いナれ、よすさま時方あし時種にス つ今まいみでば会支まっあ味てデたいうっれし間もった間類質ラ た回せまな備っと部してり深、一後よなとるたが、て、はの疑り とのんしさなたも合た行、い字ト、い衝みも。近三途列刻質応ド 思総。たん点のあ員。など解由の々よ動んのい、中車一問答上 。たこでった わの状的奇保最になな い会 こ四で時刻、の映 本述至すてと れ後に見跡田後駆とら と人帰間と意時も当惑らが、った五つ地的先のら一ば を程らな過見間終 まは たをなって 総時いにな生質れ緒、 物おれどぎがにわ

> いす様出 思す今総 ま。に席最いべ後会 しど心し後まくのを たうかでにす最自通 。もら下久 。大分じ あ慰さ保 限自て り謝っ田 に身学 田 文子 が申た先 努のび ととうごげの 力生得 # し活た R たにこ ざま皆め 記 い生と とかを

キ立た りてからつもれ十京 1つ "昨に 開け会もかた 三、昨 の。久年な場た場とか。年新年 コー保とっを人の変わ今度協士 ン九田全に待々前わら回Gヤー タ五代く方っでにらずでAク目 クニ表状もで長はな 四日ルナ 上年が況だい蛇金い子回総トニ事のまはいたの国。の目会木日 件です同ぶ。夕か朝期のかり、 は夕挨しい顔をら早奮参関ル東 、山撈だる見なつくは加催で、 米スにっししめかいにさ五、

しーか ムデーに かが夕時 虚演なる相ちンのス 驚し領る年で政 い名さすがサのおそり氏く間大題、と当主タ諸テそ嘆、はこ後か府 ツれば公!コけしやはの近さは字いにでク漠「しす母」とのには 上たら開トンるです事質とにつ宙うかもトにしてべ船ブー現っ 会がしさ・夕情、く常疑につア的。わあし入ヴ米きまうま在「飛 場、かれてク景米答に応わいずな明いり、る・目情でザたもル行 一個来ラた。夕現、Gていかるとス葉ならでき彼ワAをってかります。 一場でみていかるとス葉ならでき彼ワAをってかり重にできるとス葉ならでき彼ワAをってかりますです。 者です。一場でAくね交講ですが、れずいは「P語でとネにされる」 しいし後のでダPれいわ演あし流流たム起字テ本らいコデ保さったでで、フあく本たにさのる哲れれくス能的であると、 1るス部・、人後。学出る物キカ人ンかたとターしニら らが閨 ル、キ内わた、二のるよで「のとづら、いつ大てナひ

総

るも丁っ訳でま ることをお許して、とここにも最善を見るしまいません。 とここにも最善を見るしまいました。 下的尽。上"大 ンなか か誠幅 い点し内したに が下客、申遅 あついやしれ

会を思をと部の を乗り持い分状P 開リれつうの能R か月か難さゃ、長 同正四寸在 同 ふのこる例年は中 る例れと会生大止

> たつりしきて まま御 すし参 7加 1 F をさ ほい 絡細

せずのスメを宙と上すて発きりんの立つし。的い映。どのまれ昨 *迫体リト高にうき特見粋しる年 力音リルさき映めににをた字は は響ンと3世画た、値集が笛 事がといくるけっ字すめ、博世 に果らう!にかく笛るたせ管界 はにキ世トはかは博と博界会で 及よう界ルナわ大ホ思覧のに最く、ン最、分小空」わ会字行初せてネ大幅でをベルれと由っと ルのうのしましでまし聞でい

> せガ冷し一地 重静か現球 かくなし象の 。生マ、な地 きて何の軸 ようがかの うド起も傾 でをこしき は持ろれに あっうま関 りてとせず す もんる

かとし 備地見がしの干 まつれが球ら、て事の最 せラまでくれこ取件性近 んがせきはなめりと関 しんか字かは上しすテ がス。「丁田、数けてるレ 人が近てくた五ら、記ピ ば現いいの現前れ当事や リルラる来象にて然が新 まるちの訪ではきの しかにかのす決まこったよも公も準。してとつひ てたと う知然

とすごは今 なマがして年 ・インやんけ てナ強すど いスにいなる **メン**耳Eのま すを口な穏う 下ソッヤの・ 小るべてかに は寒でいな雪。

波はま過かり

P RSユニバーサルメッセージへ